

理学療法学科 3年

川西 章文



「さて、川西君」
「なんですか」
「『ブックハンティングに参加して』っていうお題目でなんか書くことになってるんだが」
「いやです。そういう面倒くさいのは書きたくないです」
「だよな」
「ですよ」
「そもそも本読んだりとかはしないの」
「いや読みますよ」
「どんなの」
「歴史ものとか」
「どんな歴史もの」
「三国志演義とか、水滸伝とか」
「横山光輝の漫画のやつ」
「いえ、ちゃんとオリジナルの翻訳」
「えー、すごいじゃん。でも、なんでそんなの読むようになったの」
「いや、うちは父親がそういう歴史ものとか好きで持ってて」
「ふーん、だけど日本のじゃなくて三国志なのはなぜ」
「弟が三国志のゲームやってて、ちょっと興味をもって」
「そうなんだ」

AKIFUMI
KAWANISHI
Selection



『スティーブ・ジョブズ「超」仕事力』
竹内一正
日本実業出版社
335.13||Ta67



『スティーブ・ジョブズ 驚異のプレゼン：人々を惹きつける18の法則』
カーミン・ガロ
日経BP社
336.49||G17

特集：ブックハンティング

「あと、日本の歴史ものだと、特定の人についてだけの人物伝みたいで、それより三国志とかの方が面白いんですよ」

「人数やたら多いけどね」

「まあ最初は混乱しますけど」

「でも本なんていつ読むの?」

「通学とかスポーツクラブの行き帰りに駅や電車の中で」

「そっか、電車生活だったんだ」

「毎朝6:00起きで6:45の電車に乗ってました」

「遠かったの?」

「いや距離的にはそんなでもないけど、乗り継ぎが複雑で」

「たいへんだ」

「定期4種類持って通ってました」

「電車の乗り継ぎで時間が合わなかったりとかもあるしね。」

「まあ、結構読めました」

「今は」

「何がですか」

「今は本読めてるの」

「いや、こっちに来てからは読んでないですね」

「電車乗らないもんね」

「んで、今回どんな本選んだの」

「これですけど」

「ふーん…」

「これとか、父親が買ってたので」

「スティーブジョブスカ」

「こういうの読むと自分に力がつくかなとかって」

「なんかサラリーマンっぽいね」

「はは」

「自分でも買ったりするの」

「いや、買わないですね」

「でも、能力はつけたいんだ」

「そうですね」

「で、今本読んでるんだっけ」

「いえ、全然」

「全然かよ」

「いや本当に全然」

「まあ、正直なのはいいことだな」

「ありがとうございます」

「正直すぎる」



『思考体力を鍛える: 東大人気教授が教える』
西成活裕
あさ出版
141.5||N85



『人生を最高に楽しむために 20代で使ってはいけない100の言葉』
千田琢哉
かんき出版
159||Se58



『なぜ、この人に部下は従うのか: 「人を動かす」心理法則48』
心理法則48
渋谷昌三
東洋経済新報社
336.3||Sh23



『「はやぶさ」式思考法: 日本を復活させる24の提言』
川口淳一郎
飛鳥新社
538.9||Ka92



『心を整える。: 勝利をたぐり寄せるための56の習慣』
長谷部誠
幻冬舎
783.47||H35